公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイサービスしあわせ			
○保護者評価実施期間	年　月　日	～	年　月　日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	実績なし	（回答者数）	実績なし
○従業者評価実施期間	令和8年　9月　4日	～	令和8年　9月　15日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	3	（回答者数）	3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年　10月　1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間との連携の良さ。日常的な情報共有や定期的な会議を通して利用児の状況を把握することができるので、職員全員が共通認識を持ちながら支援にあたることができる。また職員からの意見の言いやすさもある	職員間で利用児の様子や支援状況を定期的に共有できる場があるので、共通理解のもとで一貫した支援が提供できる。	今後も定期的な情報共有や専門知識や技術の習得の機会を充実させるとともに、定期的な振り返りを通して支援内容の改善を図る。
2	関係機関との連携を密に行っていることから、情報共有や協働により、利用児の生活全体を見据えた支援が提供できる。	些細なことでも担当相談支援専門員とは報告・連絡を取ることができ、助言や指導を頂くことが密にできる。	保護者との情報共有や相談支援の機会を設け、家庭と事業所が協力しながら利用児の成長を支える体制作り。

3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一人ひとりに応じた支援を行えるようにしているが、支援内容のさらなる充実に向けて、職員の専門性向上や支援技術の共有を継続して行う必要があるが、対応できる職員に偏りがある。	職員の専門性向上や支援技術の共有については研修機会の確保が必要がある。特に外部での研修への参加は最も必要性があるが、人員不足の懸念から社内研修のみになっているのが要因になっている。	より質の高いサービス提供を行う上でも、職員一人ずつでも交代制で外部研修を行っていく必要がある。
2	支援の必要な情報共有は実施しているものの、業務状況によっては職員間で十分な検討時間を確保することが難しい時がある。	日々の記録作成や送迎、他のサービス形態で利用されている方もいる為兼務している等業務が多いのが要因になっている。	日々の支援記録やケース会議を活用し、職員間での情報共有をより充実させる必要がある。また、支援内容の振り返りや検討の機会を定期的に設けることで一貫性のある質の高い支援につなげていく。
3	安心して活動できる環境設備に努めているが、活動内容の多様化や利用ニーズの変化に対応するため、療育教材や設備等の充実を継続的に検討していく必要がある。	課題の検討を実施しているものの、利用実績がない為どのような療育教材や設備等が必要なのか実践できないでいることが要因になっている。	課題の検討は継続していき、安心、安全にご利用できる環境整備に努めていく。